

第 75 回 医療薬学公開シンポジウム開催報告書

第 75 回医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 新岡 文典

令和元年 10 月 20 日（日）に青森県観光物産館アスパムにて、第 75 回医療薬学公開シンポジウム（主催：日本医療薬学会、後援：青森県病院薬剤師会・一般社団法人青森県薬剤師会）を開催しました。本公開シンポジウムでは「適正な臨床研究推進のために必要な知識と技術」をテーマとし、臨床研究における統計解析および倫理審査の重要性について、医師、薬剤師、倫理委員会担当事務官からご講演をいただきました。参加者は全体で 56 名で、病院薬剤師が 43 名、保険調剤薬局薬剤師が 8 名、大学教員が 3 名、その他が 2 名でした。開催地である青森県以外からも、北海道、秋田県、岩手県、福島県および東京都からの参加がありました。

特別講演では、弘前大学医学部附属病院 臨床試験管理センター 准教授 松坂 方士先生に「臨床研究における統計解析の重要性」についてご講演いただきました。自らが学会等で研究発表する際や、研究成果を評価し日常の臨床業務に取り入れる際に必要な統計解析の基本的な考え方、および、陥りやすいピットホールについて分かりやすく解説いただきました。シンポジウムでは、「その研究、倫理委員会での審査が必要です！」というテーマで、富山大学附属病院 臨床研究管理センター 特任教授 寺元 剛先生から「個人情報保護および利益相反」について、弘前大学医学部附属病院 臨床試験管理センター 講師 工藤 正純先生から「臨床研究に必要な申請書類の書き方」について、弘前大学大学院医学研究科 総務グループ 主任 栗林 航先生から「倫理委員会事務局から見る審査のポイント」について、一般社団法人 青森県薬剤師会 常務理事/ひがし調剤薬局 柴崎 崇先生から「薬剤師会地域倫理委員会の果たす役割」についてご講演いただきました。フロアーから、臨床研究法と学会が定める利益相反管理の違い、研究分担施設におけるオプトアウトの実施方法、倫理委員会を持たない施設における審査依頼方法等についての質問があり、活発な討論が交わされました。

我々薬剤師は、社会や患者さんにとって有用な情報を発信していく責務があります。本責務を果たすためには、必要な倫理審査を経て臨床研究を実施し、得られたデータを適切な統計手法を用いて解析することが重要となります。本公開シンポジウムを通じて、参加された先生方に、これらの重要性について理解を深めていただけたなら大変嬉しく思います。

最後に、今回のシンポジウム開催にあたりご後援いただきました青森県病院薬剤師会、一般社団法人青森県薬剤師会、さらに我々の不慣れな企画・運営を終始懇切丁寧にご支援いただきました日本医療薬学会事務局の方々に厚く御礼申し上げます。